

近畿北部村落における

株。マキ。親方子方

同志社大 松 本 通 晴

(一) かつて竹田聡州氏は民俗学の立場から、「祭祀の共同は同族結合の富む諸機能のうち最も本質的なものの一つである」として同族祭祀をとりあげ、しかし「同族研究の初期の資料は東北地方や信州、甲州など」に多く、「同族祭祀は畿内に果して存在しないものかどうか」と問い、「どの学問分野から比較的等閑に付された観があつた」として、これにこたえて近畿二府六県（含福井縣一部）、全町村一、四九五（回収率約六割弱）^{*}に対して郵送調査を試み、「近畿村落における同族祭」資料を提供して、その資料検討から次のように結論づけられた。すなわち「近畿の北部山岳地帯たる丹波・丹後を中心とした両丹地方には同族結合とその共同祭が意外に濃厚に分布する一方、同じ近畿周辺の山岳地帯でも南部の紀州諸郡にはそれがほとんどみられない……畿内平野部……」

対象の地域が広く村数の多いにかかわらず、同族祭祀の報告例は著しく少なく、その点極めて対照的であつた」とされた。

※ 昭和二五年、二六年の調査報告。「近畿村落における同族祭・両墓制・屋敷神の分布資料」(一) 同志社大『文化学年報』第十二輯、第十三輯、昭和三八年、三九年。

(二) そこで筆者はこの竹田氏の「結論」をうけて、次の四つの

点においてさらに展開を試みようとしたのである。

(イ) 筆者は「同族結合とその共同祭の濃厚に分布する」とされる丹波・丹後を中心に、若狭・但馬も加えて、これら

に調査対象地域を限定した。そして竹田氏の行政町村単

位の調査にかわつて、大字単位の調査（総数二、三七一

うち市街地等を除き郵送分二、一四三（回収率約六一）

で同族結合を明らかにすることにした。

(ロ) しかし調査にさいしての項目は竹田氏のそれに多く依拠

して、その後の一八年間における変化を大雑把ながらも

つかむことができるように配慮した。

(ハ) さらに筆者の調査では、親方子方の慣行についても調査

することにした。それは但馬においてその慣行の存在が

著しいものと指摘されてきたからである。

(ニ) 以上の点をふくむ筆者の郵送調査から、近畿北部村落に

おける同族結合と親方子方慣行とが傾向的に明らか

されるであろう。それ故に既存の個別論文や地方誌もこ

の傾向性をふまえて正しく位置づけることができると思
う。

(三) もちろ竹田氏の場合も、筆者の場合も、郵送調査にもとづ
く傾向性の把握にとどまるものである。したがって村落構
造の中でのそれら同族結合と親方子方関係の正しい位置づ
けは個別村落調査にもとづくものでなければならぬ。そ
のために筆者は京都府北桑田郡旧山国村[※]の事例において同
族結合を、また京都府与謝郡野田川町龜山の事例において
親方子方関係を、既存の諸研究も参照しながら報告するも
のである。そしてこれらのことから何らかの問題提示がで
きればと思う。

※ 同志社大人文研編『林業村落の史的研究』ミネルヴァ
書房、昭和四二年刊 参照。